自治体名：京都府宮津市

自動運転社会実装推進事業

最終報告書（公開版）

**【事業背景・目的】**

※事業背景と目的について記入してください（150文字程度）

宮津市では、深刻な運転手不足による路線維持、高齢化によるラストワンマイル対応が課題であり、先進技術を活用した地域内交通確保の重要性が高まっていることから、西日本電信電話株式会社京都支店などと連携し、自動運転EVバスを活用した取組により、持続可能な公共交通の確立を目指す。

**【事業内容】**

※実施した事業内容について記入してください（150文字程度）

宮津市における自動運転EVバスの社会実装を目指した運行に先立ち、運行に向けた走行ルートにおける各調査（以下記載）を行い、次年度以降着実な安全安心な運行をめざす。

【調査内容①：自動運転実証に向けた市町村における走行ルートのフィジビリティ調査】

【調査内容②：自動運転走行に向けたリスクアセスメント】

【調査内容③：有望な走行ルートにおける３Dマップ作成等】

**【検証項目・検証方法】**

※経営面・技術面・社会受容性面の主要な検証項目について、検証方法を記入してください

※1ページ目に収まる範囲であれば、列の追加・消去は可能です

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 検証項目 | 検証方法 |
| 経営面 | レベル４通年運行に向けた事業性確保への対処状況 | 机上調査や先進地視察による検証 |
| 自動運転バス利用見込みの市民・観光客への期待・利用意向、地域交通確保のための負担意向の把握 | アンケート調査の実施（走行ルートの候補となっている府中地区の住民へアンケート実施） |
| 技術面 | 自動運転レベル4の社会実装を見据えた実現可能なルートの明確化 | 走行ルート調査 |
| 自動運転レベル4を妨げる項目の洗い出しと対策の明確化 | 走行ルート調査、リスクアセスメント、交通量解析AIカメラにて取得した市道流入・国道流出の交通量データ解析 |
| 社会受容性面 | 自動運転バス利用見込みの市民・観光客への自動運転の受容度 | アンケート調査 |
| 自動運転の関係行政機関団体への周知 | 地域コミッティの確立及び運営 |

**【検証・分析結果】**　（※前章【検証項目・検証方法】と連動した報告内容を記載ください）

■経営面

※経営面の主要な検証項目について、検証・分析結果を記載してください（500文字程度）

レベル４通年運行に向けた事業性確保への対処を机上調査や先進地視察をもとに検討し、自動運転バス利用見込みの市民・観光客への期待・利用意向、地域交通確保のための負担意向等の把握をアンケートにより実施した。

目標としている収支率20%の達成については、運賃収入のみでは難しく、収入構造を根本的に検討する必要があり、先進地視察を行った自治体では、運賃収入に頼った事業モデルは成り立たないという考え方に立ち、立ち寄り地となる商店などからの協賛金を得るなどのモデルを検討している。宮津市においても、レベル４での通年運行では、運賃以外にも、観光施設からの協賛金やふるさと納税などを収益源とするモデルを検討していく。

また、自動運転EVバスの実証運行を検討している地区においてのアンケート調査の結果、アンケート全体の約80％（34/43名）が肯定的な回答となっており、地域における期待度は比較的高い。

■技術面

※技術面の主要な検証項目について、検証・分析結果を記載してください（500文字程度）

**【運行ルートの決定】**

**■運行ルート：**京都府宮津市　丹後海陸交通の汽船乗り場～天橋立ワイナリー間

**■ルートの選定理由：**

運転手の確保やラストワンマイル対応といった課題の解決の観点から、観光周遊性の向上のほか住民のニーズを踏まえた経営面、レベル４運行に向けた課題を踏まえた技術面、多くの市民から理解を得るための社会受容性面を勘案し、ルートを選定した。

**【リスクアセスメント及び交通量調査】**

■**リスクアセスメント及び交通量調査を踏まえた対応方針：**

交通量調査の結果、自動運転実証時に車両が交互通行となる可能性は限定的と判断できるため、上記ルートでの実証を次年度試みる。

　 市道区間におけるトラブル（例：自動運転車両と自動車が市道区間でお見合い状態となる等）防止を考慮し、次年度の実証実験（自動運転走行する）においては、市道区間に保安員等を配置する事を検討し、交互通行が発生しないような誘導（例：自動運転車両が市道区間を走行している時間帯は、保安員にて他の車両通行止めを行う等）を実施する方針。

　なお、今後社会実装に向けては路車協調システム等も積極的に活用することとし、関係各所との協議を進めるなど、引き続き社会実装に向けた環境整備を行っていく。

■社会受容性面

※社会受容性面の主要な検証項目について、検証・分析結果を記載してください（500文字程度）

【住民アンケートの実施】

自動運転バス利用見込みの市民・観光客への自動運転の受容度を検証すべく走行予定周辺の住民へ自動運転の運行に係るアンケートを実施。（43名が回答）

住民アンケート結果では、回答者の約80%が自動運転の取組は重要だと回答しており、高齢者等の移動手段の確保や外出機会の増加に期待がされている。

また、半数以上の住民が、「移動の利便性向上」「公共交通機関の利用増加」を自動運転バスが社会実装することのメリットとして認識している。

【地域コミッティの確立及び運営】

地域コミッティでの関係行政機関との協議を通じて、想定ルートでの安全運行に対する懸念点を洗い出すことができ、今後、自動運転バスを円滑に走行させるにあたっての必要な情報を共有することができた。また、地域コミッティのほか、宮津市地域公共交通会議や当会議の先進モビリティサービス検討部会により、住民代表、学校関係者、観光事業者といった、地域コミッティよりも幅広い関係者との協議の上で、取組への協力体制を構築することができた。